

## 平成14年度第1回宇都宮市冒険活動運営協議会議録

日 時 平成14年7月25日(木) 10時~12時  
会 場 宇都宮市冒険活動センター 会議室  
出席者 坂本 宏夫 委員(市小学校長会)  
中山 正孝 委員(市中学校長会)  
三村 正行 委員(市PTA連合会)  
四宮 茂樹 委員(市子ども会連合会)  
益子 栄子 委員(市ボーイスカウト・  
ガールスカウト連絡協議会)  
渡辺 美津子委員(市レクリエーション協会)  
新村 尚 委員(県キャンプ協会)  
西 順一 委員(宇都宮大学名誉教授)  
阿久津義正 委員(篠井地区むらづくり推進協議会)  
阿久津 孝 委員(市森林組合)  
古賀 延繁 委員(市生涯学習センター運営審議会)  
竹内 智祐 委員(宇都宮青年会議所)

事務局 沼尾 博行(スポーツ振興課長)  
竹内 律 (冒険活動センター所長)  
塚原 和哉(冒険活動センター副所長)  
塩田 雅明(冒険活動センター指導主事)  
稲澤 正明(冒険活動センター指導主事)

### 1 開 会

### 2 会長挨拶

### 3 委員紹介

### 4 議 題

#### (1) 報告事項

施設利用状況について

<資料1に基づいて事務局側から説明>

- ・ 平成8年度~平成13年度の利用実人数はおおよそ17,000~18,000人と横ばいとなっているが,少子化や8月はロッジやテントが満室となり申し込みを数多くお断りせざるおえないという状況から実質利用者数は増加していると考えられる。
- ・ 12月~3月の冬場の時期の利用者数が少ないが,他の同じような施設も同様であり,またセンター側ではロッジのみの宿泊となるため学校利用を意図的

に減らしている。という現状がある。

平成13年度事業報告について <資料1に基づいて事務局側から説明>

平成14年度事業計画について <資料2に基づいて事務局側から説明>

(益子委員) 家族キャンプ・冒険キャンプの参加者の選考方法を伺いたい。

(事務局) 応募者全員に番号をつけ抽選をしている。応募者全員に参加していただきたいが、施設・スタッフ・内容の充実を考え20組、50人と限定している。

(阿久津委員) 似たような施設では利用者数が増えていないと聞かすが、そんな状況の中、冒険センターの人気の高い理由は何か。

(事務局) 職員の笑顔が一番ではないだろうか。実際の指導場面では若い職員が対応することが多く、その対応が素晴らしい。アンケートにもあらわれている。もう1つは費用が安いことが考えられる。民間の似たような事業に比べると非常に安い。

(渡辺委員) 主催事業の抽選に漏れた方やリピーターの申し込みもあるか。

(事務局) 当センターの良さが幅広く伝わってきているので、抽選に外れてしまった方たちやリピーターの方たちの申し込みは非常に多い。しかし、新しい方たちにもキャンプの楽しさを味わっていただきたいとも考えている。

(古賀委員) 主催事業への参加希望者が多いということから、春・夏・秋・冬と季節ごとに取り組んでみてはどうか。

(事務局) 以前、冬に家族キャンプをやってみたがあまり人が集まらなかった。そこで現在は、春と秋の一番良い季節に実施している。また、主催事業は土日開催となるため職員の人数にも問題がある。しかし、15年度に向けて今後も主催事業のことについては検討していきたい。

(事務局) 冒険センターの良さについてより多くの人に知って欲しいと考えている。今年度も日帰りの主催事業を1つ増やした。また、現在行われている冒険キャンプもかなり中身の濃い内容であり準備時間も必要である。しかし、要望がある以上今後検討し、何らかの形でその要望に答えていきたいと考えている。また、学校週5日制への対応として土曜日の利用についても検討していきたい。

(西会長) 協議事項の中にも関連する内容があるので、そのときにご意見をいただきたい。(2)の協議事項に移ります。

## (2) 協議事項

学校週5日制への対応について

(事務局) 学校週5日制に対応した社会の動向について参考資料1に基づいて説明。学校週5日制に対応した冒険活動センターの取り組みについて資料3に基づいて説明。

- (西会長) 学校週5日制に伴うセンターの対応について、それぞれの立場から期待や要望がありましたら意見をいただきたい。
- (阿久津義正委員) 篠井全体を冒険センターの活動フィールドと考えてもらえるように地域で協力できることはないだろうか。
- (事務局) 一般利用の方々から篠井の特産品や地域の特性を生かした活動についての問い合わせはある。そこで、一般の方々にも地域の特性を生かした活動プログラムを紹介できたら、より活動の幅が広がっていくのではないかと考えている。しかし問題点として、いつ・どの程度の数の要望があるか把握できないことがあげられる。
- (事務局) 移動手段が徒歩に限られてしまうので活動範囲は限られてしまっているが、現在でもさまざまな活動で地域の方々の暖かい協力をいただいている。今後も篠井地区と冒険センターが協力し合っていくことでますます良い活動ができるのではないかと考えている。
- (西会長) 高齢者の中にはさまざまな伝統的なものを身につけている方もいらっしゃる。今後は指導者の発掘も必要になってくるでしょう。
- (益田委員) 他の施設でうどん打ちを体験した子どもが普段食べないのに喜んで食べていた。篠井はうどんも有名であると聞いているので、是非地元の方の指導のもとに自分で作って自分で食べるという活動を取り入れてもらいたい。また、土日の利用者を対象にその地区に伝わる民話などを地元の方をお招きして聞かせるという活動を取り入れてみてはどうか。
- (西会長) この地区には民話のようなものがあるのでしょうか。
- (阿久津義正委員) 栃木県で教科書に登場した作家は2人いると聞いているが、そのうちの一人が童話作家であった下篠井出身の千葉省三氏である。その作品は子どもたちの冒険活動のようなものを扱った作品がほとんどである。冒険活動センターを訪れた子どもたちに体を動かすことばかりでなく、地元の作家の作品に触れさせてみてはどうか。また、その他に民話も残っていると思うので子どもたちに読み聞かせする場が設けられたら良いと思う。
- (西会長) 読み聞かせなどは夜の活動に取り入れられるのではないかと。
- (渡辺委員) 夏休みなどの長期休業中に団体で利用した場合活動に対して指導や援助をしていただけるのか。
- (事務局) アドベンチャーリーダーと専門指導員は学校利用のみ指導・援助を行っているが、一般利用者には行っていないのが現状である。
- (新村委員) 野外活動初心者の方とは別に、リピーターにはよりハイレベルの野外教育を行えると思う。そこで、リピーターを対象にした主催事業を行ってもよいのではないかと。また、野外活動にはたいへん優れた教育内容が含まれているので、継続的な活動を行っていくためにクラブを設置し

てみてはどうか。そうすることによってより高いレベルの資質を持った子どもたちが育っていくと思う。そして、その子どもたちを指導者とした活動を行うことで、大人が指導者として取り組んだことでは得られない教育効果を参加する子どもたちも、また指導する子どもも得られるのではないか。

(西会長) クラブを立ち上げるということにはさまざまな難しい問題も含んでいると思うがどうだろうか。

(事務局) この件については昨年度職員で話し合いをもった。しかし、たとえば毎週土曜日活动するとして、職員がどう対応するのかに問題が残った。指導主事4人がローテーションを組んで毎週当番制にする等の取り組み方もあるが現在のところ手探り状態である。案としてはすばらしいものであるが、正直なところ現在は立ち消え状態となっている。

(西会長) この後の指導者養成についての話でも触れるが、ここで指導者を養成し、その指導者が団体を連れてきて活動するということがクラブ立ち上げという要望の一端を担えるのではないだろうか。

(坂本委員) ここの施設をクラブハウスのようなものとして使えないだろうか。週末に野外活動に興味のある者たちが集まり、様々な情報の交換の場として利用されると良いのではないか。本校では週5日制への対応として土曜学校というものを立ち上げ実施したが、結局は家に保護者がいない児童たちのみが遊びに来るだけで、そうでない児童たちは市教委のアンケートのように家で過ごしたり、また友達と一緒に遊んだと言ってもそれぞれがどちらかの家でテレビゲームをするというだけで、とても一緒に遊んだとはいえないような過ごし方をしている。このような現状を考えると保護者を教育していくことが重要であると考えざるおえない。そういった点からもここの施設で様々な情報交換ができれば良いと思う。

(西会長) 野外活動に興味のある人たちの溜まり場となった場合、具体的に集まった人たちにはどんな活動が考えられるだろうか。

(坂本委員) 野外活動に関する話があったり、もちろんそれ以外でも子育てに関することであったり、基本的にはどんな情報の交換場所でも良いと思う。

(西会長) 会員登録のような形をとった上でできたらいいですね。

(事務局) 野外活動の話を中心に人が集まってくるということでは良いことだと思う。

#### 指導者養成制度の確立について

(事務局) 以下について説明。

ア 資料4 - (1) 及び参考資料3に基づいて「自然体験活動推進協議会(CONE)入会」について

イ 資料4 - (2)に基づいて「指導者養成事業」について

ウ 資料4 - (3)及び参考資料4に基づいて「リーダーバンク事業」について

(西会長)まったく新しい内容についておはかりすることになりますが、実際には7月に指導者養成団体の認定がもらえる予定であるということからスタートしている事項ではありますが、今後の取り組みに対して様々な問題も含まれると思いますので、それぞれの立場から自由に話をいただければと思います。

(坂本委員)ただの講習会ではなく、資格が取れる講習会は人が集まるのではないか。

(新村委員)野外教育の指導者の養成は以前文部省認定のものがあり、国も取り組んできた。さきほど事務局から話のあった新しくできたというCONEという団体について文科省はどのようにとらえているのだろうか。また、リーダーバンク制度については今までに数多くの団体が取り組んできているが、失敗例も多いと聞いている。

(西会長)利用者に向け指導者を紹介できるようなネットワーク作りが大切ではないか。

(事務局)宇都宮市でもリーダーバンク制度はあるが、現在はあまり活用されていない。今後は各種団体と連携を図りながら、新たな形を模索していくべきであろう。

(四宮委員)資格制度を与える講習となると講習時間が増えるので参加率が悪くなる。しかしすべてをクリアしないと認定されない。そこで地元の地域でそれぞれの団体が指導者を育てていくという考えもあるのではないか。外部の指導者をお願いすると指導者に任せきりになってしまう心配もある。

(渡辺委員)資格を取ったあとの研修も大切になると思う。資格を取ったからといって、すぐ実践で指導できるというわけではない。指導者として数多く場数を踏むことも大切ではないか。

(西会長)子ども会などでの短期的な活動の場合、必ずしも資格をもっていなくても保護者から見てあの人なら信用して任せられるという場合もあると思う。また、リーダーバンクを活用する側から考えると、バンクに記載されている名前や写真を見てもその人の人となりが見えてこないことがある。

(益田委員)ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会では資格を取らないとリーダーになれない。そして資格を持ったリーダーでないと野外に子どもたちを連れて行けない。また、リーダーを育てるトレーナーは65歳を定年とし、新しい方に入れ替わるようなシステムにしているが、なかなか資格を取得してくれないのが現状であるが、冒険センターでは、是非

がんばってリーダーを育てて行って欲しい。

- (西会長) 資格をとってリーダーバンクに登録しても声がかからないという心配もあるのではないかと。
- (事務局) 私どもの強みは活動する場所がここにあることではないだろうか。6月に行われた利用者研修会では地域の子ども会、スポーツ少年団、サークルなどの中心になっている方がたくさん参加してくれた。そういったことから登録した方々を活用できそうだという期待をもっている。
- (新村委員) 資格をもっている指導者が依頼のあった団体と関わっていくときに、依頼のあった指導者が直接子どもたちの前に出てその団体を指導していくのではなく、団体の中の指導者に対してプログラム作りやその他の相談にのっていき、子どもたちを直接指導していくのは常日頃から付き合いのあるその団体の指導者とする。という形をとるべきではないかと。
- (四宮委員) 私も賛成である。団体のリーダーや大人たちを指導していき、その方たちが自ら実際の場面で指導し、運営できるようになってもらえるような支え方をしていくことが大切だと思う。
- (渡辺委員) すべての講習を受けないと資格取得にならないようだが、例えばその講習の中の一部分だけ学びたい方に対する対応はどのように考えているのだろうか。
- (事務局) 運用の部分になるので、その時々に対応になるが可能だと思う。
- (西会長) リーダーバンク制度については、今までも様々な団体が取り組んできたが、苦い経験をした団体もある。いろいろなところから助言をもらいながら取り組んで欲しい。またインターネットなどを活用した広報活動も行い、地域でどんな取り組みをしているのかについても、情報を発信していったらどうか。
- (坂本委員) 将来的には冒険活動センターに有名な指導者が生まれ、外国からも指導依頼が来るようになって欲しい。
- (西会長) 夢を大きくもって、この指導者養成制度について継続的に検討していただきたい。

## 5 閉会